

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年9月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、週末8/6のWTI原油は、先週比5.67ドル安の68.28ドルとなりました。2日発表の中国製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.3となり2ヶ月連続で低下し、1年3ヶ月ぶりの低水準となりました。新型コロナウイルス禍で低迷したアジア地域の経済回復を牽引してきた中国の景気鈍化の兆しを受けてエネルギー消費の先行き懸念が台頭してきました。また世界2大石油消費国の米国と中国で、感染力の強い新型コロナウイルスのデルタ株が急速に拡大し、エネルギー需要を抑制するとの見方が強まり原油は売られました。

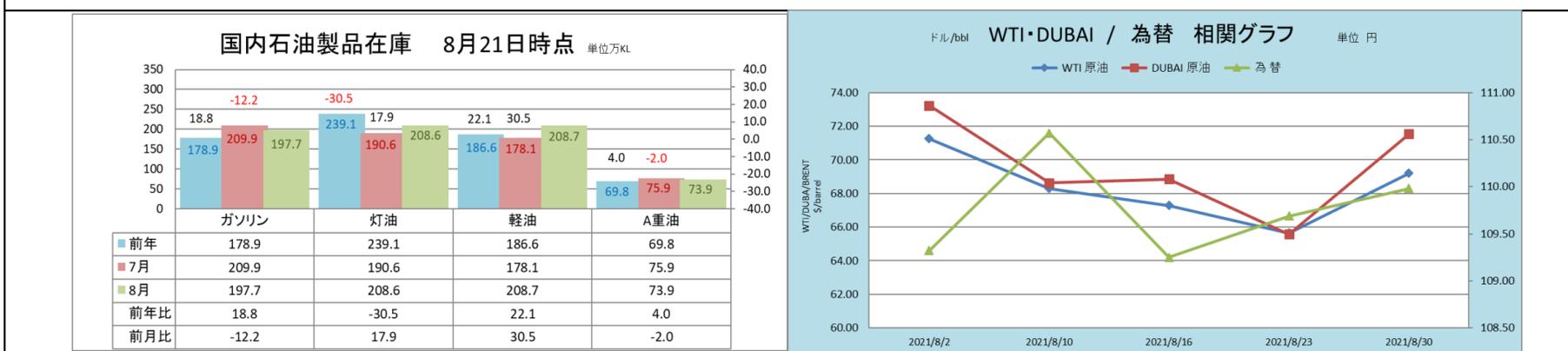
●第2週、週末8/13のWTI原油は、先週比0.16ドル高の68.44ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)は月報で、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大により、7月に入って石油需要の伸びが急激に変化したと指摘しました。中国などアジア地域で行動規制が強化される中、今年下半期の伸びは従来予想を日量50万バレル下回るとの見通しを示しました。これを受けて原油売りが優勢となりました。

●第3週、週末8/20のWTI原油は、先週比6.12ドル安の62.32ドルとなりました。新型コロナのデルタ株蔓延による景気減速の警戒感から、原油は売られました。新規感染者は米国でも急増しアジアを中心にロックダウン(都市封鎖)や行動規制措置が強化され燃料需要が鈍化するとの懸念が投資家心理を圧迫しています。エネルギー消費大国である中国で、新型コロナの影響により港湾が一部閉鎖され貨物輸送や供給網に混乱が生じていることも下押し要因となりました。また米エネルギー情報局(EIA)の在庫統計で、夏のドライブシーズンにもかかわらずガソリン在庫が予想に反して増加したことも相場の重しとなりました。

●第4週、週末8/27のWTI原油は、先週比6.42ドル高の68.74ドルとなりました。米食品医薬品局(FDA)が、米ファイザーと独ビオンテックが共同開発した新型コロナワクチンを正式承認したと発表しました。ワクチン接種のペースが加速し、米経済の正常化に伴ってエネルギー需要も高まるとの期待感が広がり原油は買われました。

米エネルギー情報局(EIA)が発表した20日までの在庫統計では、原油が300万バレル減少し3週連続の取り崩しとなりました。ガソリン在庫も160万バレル減の予想に対し220万バレル減少しました。さらに燃料需要の指標とされる石油製品供給の4週平均が日量2099万バレルと新型コロナウイルス流行前の昨年3月以来の規模に増加し原油は買われました。また大型ハリケーンが米メキシコ湾岸中部に接近しており、多大な被害が出ればエネルギー商品の供給が逼迫しかねないとの警戒感から原油相場は上昇しました。

	8月平均	WTI原油	67.71ドル	前月比	-4.72ドル	為替 1ドル	110.85円	前月差	-0.46円
--	------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	--------



日付	変動幅	変動幅
8/1~8/4	-0.5	-1.0
8/5~8/11	+1.5	+1.5
8/12~8/18	-2.0	-2.0
8/19~8/25	-0.5	-0.5
8/26~9/1	-2.0	-2.0

出光昭和シェル ENEOS

【次世代エネルギー】<CO2排出しない水素航空機、空港インフラの整備検討へ>

政府は、水素航空機の将来的な実用化を見据え、燃料の水素を空港で大量に保管・貯蔵し、機体に供給するためのインフラ整備の検討に乗り出す。安全技術の確立や制度・施設の早期整備につなげCO2を排出しない水素の活用で、世界に先行することを目指す。水素は使用済みの油や穀物から作るバイオ燃料とともに、将来の航空燃料として期待が高い。欧州航空機大手エアバスは、2035年までに水素航空機を市場投入すると公表した。実際に運行する際は、空港で大量の水素を保管・貯蔵し、専用のタンクローリーや送配管を使って航空機に注入・補給するための大規模な設備が必要となる。経済産業省や国土交通省、文部科学省は8月上旬に官民の検討会議を設置し、今秋をめどに実現に向けた課題を整理する。水素はマイナス253度で液状状態にして保存し、可燃性のために安全対策やテロ防止に向けた対応が欠かせない。会議には、全日本空輸や日本航空のほか、水素供給やインフラ整備を担うことが予想される川崎重工業や三菱重工業、IHI、燃料会社も加わる。

【出典】①<https://www.yomiuri.co.jp/economy/20210731-OYT1T50377/> ②<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA0121X0R00C21A8000000/>

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	21/7	9桁速報	49,874	71.72	110.56	2,278
	21/8	最終予測	51,897	75.07	109.90	2,023
	21/9	展望	49,908	72.79	109.00	-1,989
	21/10	展望	49,413	72.40	108.50	-495

【9月価格変動要因】

●需要面: 欧米は引き続き感染者増も需要への影響は限定的との見方の一方、デルタ株感染拡大によるアジア圏での需要減退が重しになっています。一方、中国はアジア圏の中では移動制限緩和が行われており中国の需要回復が今後進んでいくものと思われます。

●供給面: 7月のOPECプラスの会合で8月以降毎月日量40万バレル減産幅を縮小することで合意しましたが、9/1の会合では、この計画について話し合いを行います。予定通り決定を維持するとの見方が大半となっています。ハリケーンアイダによる製油所施設の被害状況次第で今後の原油の生産に大きな影響を及ぼします。

●在庫: 米原油在庫は、過去5年平均を大きく割り込み減少中です。ガソリンは旺盛な需要と製油所稼働率が抑えられている影響もあり大幅に減少しています。今後はハリケーンアイダの影響で製油所の稼働が停止した場合、原油の在庫が積み上がり製品在庫が大幅に減少し原油安、製品高を引き起こす懸念があります。

●地政学: アフガニスタンからの米軍の撤退が完了しました。アフガニスタン情勢は、直接的な原油相場への影響は限定的であるものの、地政学的リスクの高まりには注意が必要です。イランの核合意復帰に対する見通しは未だ立っておらず、早期の原油輸出再開の可能性は低いものと思われます。

〈9月価格見通し〉 (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	78	76
Average	73	71
Low	65	63

日付	国	9月経済指標カレンダー	日付	国	9月経済指標カレンダー
1	米	8月ADP雇用統計	9	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
1	米	8月ISM製造業景況指数	14	米	8月消費者物価指数(CPI)
3	米	8月非農業部門雇用者数変化	16	米	8月小売売上高
3	米	8月失業率	17	欧	8月消費者物価指数(HICP、改定値)
3	米	平均時給	22	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表
3	米	8月ISM非製造業景況指数	22	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
7	欧	4-6月期 四半期域内総生産(GDP、確定値)	24	米	8月新築住宅販売件数
9	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利	30	米	4-6月期 四半期実質国内総生産(GDP、確定値)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。